

て之を廢止せんとするが如きは新市長の爲に惜む所に有之、殊に會社に之を拂下けて經營せしめむとするが如きは、市經營方法の改善に依りて事業遂行の可能性あることを物語るもの

のに有之、況んや従前の車體を改造し日ならずして之を廢止せむとするが如きは、吾人は女車掌に非らざるも其の否を主張して已まざるものに御座候。

災後の市内交通は一層繁劇を加へ、到底既成交通機關にては市民生活を十分ならしめざることに立至り候に付、新市長は其の施政の一端として地下鐵道敷設計畫を樹て出願したる趣に候。その計畫に依るときは、市の中樞地區たる京橋日本橋の一部を起點として郊外に達する六線、延長四十九哩七十鎮の道路地下に本年度より十五年度に亘り經費一億九千九百八十萬圓を以て鐵道を敷設せむとするものに有之、先づ之が計畫案に關し鐵道内務兩省の了解を求め關係者は先般來會合して研究致居候、何人と雖事業其のものに對して異論あるべきものに無之、唯だ財政計畫が市豫定の如き成績を得るやが疑問に候得共、之も亦市長の努力次第にて適當の成績を收め得ること、存候に付、萬難を排して之が遂行に力め行き詰れる市内交通を緩和せられむことを希望して已まざる次第に御座候。敬具

◎山口便り

鳴 城 生

肅啓中央地方を通じ今や政治期節の最中にして、明年度に於ける主要行政の陣容——豫算が如何に組織せらるゝかは極めて興味ある問題に有之候、而して現内閣組織の重要な使命として、中央地方に於ける行財兩政の整理緊縮せらるゝことは當然の歸結にして、世論も之の大綱に關しては共鳴し、吾人亦透徹せる緊縮整理を切望する者に有之候、然れども世運の進展を阻止し緊切の事業にして時代の要求に遠ざかることあらんか、實に千歳の恨事にして特に爲政者の省察を乞はんと欲する次第に有之候。申す迄も無之帝國現下の狀勢としては行き詰まれる農村の局面を如何に打開するかは舉世の叫びに有之、而も其の農村振興策として世論が生産増加一點張の舊套を脱し、經濟の調節を主要題目として研究の傾向を馴致したるは時代の趨勢其の然らしむるありと雖も、漸く眞剣味を帶び來れるものとして竊に慶祝を禁ぜざる次第に有之候如此は獨り農政當路者の施設のみに依つて目的を達し得べきにあらず、總べての行政機關に依つて之が對策を講ずること

は眞に焦眉の事項なりと信じ候、就中吾人は農村經濟調節の

根本策を交通設備の改善に在りと提唱せんと欲するものに有之候、如何に生産の増殖を策し如何に生産費の節約を圖り、如何に需給の調節を期すると雖も、産地たる農村と市場の距離現在の如く遠く往々にして馬子唄の悠長さを留め、自動車の實地見學に邊陲の兒童が草鞋握飯の出立を見る農村の現状に在りては、遂に終局の目的を達し得ざるべしと信じ候。

農村と市場とを近接せしむる、換言せば市場を農村に延長するは獨り道路改善の一途ある而已と存じ候、如聞は中央に於ても亦土木當局の絶大なる努力と、道路改良會の緊張せる活動に依り、道路改良費に相當の豫算成立を見たる由、吾人は單に帝國交通機關の改善促進上の立場而已ならず、叙上の主旨に於ても亦慶賀措く能はざる處に有之候、此の場合弊縣に於ける狀況の一端を紹介致度、即ち弊縣會は十一月二十二日開會十二月十九日閉會致候、縣會に於ける主要の題目は農村振興策の高唱に在ること勿論にして、隨つて道路の維持改善助成の施設に對し積極なるべしとの空氣の張溢せることは吾人の筋に意を強うする處に有之候。弊縣の道路改良策は過ぐる大正十年に、其の第一期計畫を樹立して、國府縣道主要幹線百三十五里を、幅員一間半乃至十二間に改修するものに有之候。當初十年繼續事業たりしも引續ける財政の緊縮に禍

せられ、客年通常縣會に於て十三年繼續事業に變更を餘儀なくされ、更に本年に於て大正十四年度支出額を著く繰延べの已むを得ざりし次第に有之候、然れども之の異常時に處し終局の目的達成に支障を來さざることは、輿論の趨向を裏書するものとして路政の爲に祝福し、狀況一端を記して擱筆致候、計畫内容に就ては更に他日を期し詳細報道致度候。敬具

自大正十年度
至大正二十二年度 **山口縣土木費繼續年期及支出方法**

一金千九百七拾九萬圓

道路改良費

(金貳拾萬圓)	大正十年度支出額
(金百八拾七萬圓)	大正十一年度支出額
(金四拾四萬圓)	大正十二年度支出額
(金四拾四萬圓)	大正十三年度支出額
(金五拾四萬圓)	大正十四年度支出額
(金百七拾五萬圓)	大正十五年度支出額
(金百七拾五萬圓)	大正十六年度支出額
(金貳百拾五萬圓)	大正十七年度支出額
(金貳百拾五萬圓)	大正十八年度支出額
(金貳百拾五萬圓)	大正十九年度支出額
(金貳百拾五萬圓)	大正二十年度支出額
(金貳百拾貳萬圓)	大正二十一年度支出額
(金貳百八萬圓)	大正二十二年度支出額